

お元気ですか

～全国各地の会員からのお便りを紹介します～【2016年9月】

第33回Jネット勉強会「国会議事堂」見学会

高田市南城町出身 溝口良二 文京区本郷3丁目在住

第33回Jネット勉強会である「国会議事堂」見学会は、平成28年8月24日に実施されました。台風9号が過ぎ去った後なので、晴れることを期待していましたが、生憎の曇天の中、総勢17名の皆さまが参加しました。

誰もが国会議事堂はテレビのニュースで見ることがあっても、実際に中に入った人は少ないと思います。今回は高鳥衆議院議員の秘書の長さんのご案内で、通常の参観者が見られない所を見せていただき感動しました。

国会議事堂は16年の歳月をかけて昭和11年に竣工されました。平成22年3月の東日本大震災でも建物の被害はなかったそうです。工費は今のお金に換算すると700億円とのことですが、現在見積もっても、とても700億円では建設出来ないということです。

入館証を首に掛けて、国会議事堂の絨毯(じゅうたん)の上を歩きましたが、その歩き心地は何とも言えませんでした。議事堂に敷き詰めである長絨毯の総延長は4kmだと聞いて驚きました。廊下の壁は大理石で出来ており、中央部分は沖縄県産の珊瑚石灰岩でアンモナイトなどの化石が埋まっています。今は使われていない7階のホールは、マッカーサー統治下では一時ダンスホールとして使用されたこともあり、今でも英語の落書きが残っているそうです。

さて、議場、委員会室と控室を見て回りました。圧巻は天皇陛下の御休所です。ここは陛下以外の者は入室出来ず、皇后さまや皇太子殿下も入れません。部屋の内装は安土桃山時代のもので、床に敷き詰めた絨毯は緞通(だんつう)と呼ばれています。議事堂の建設費の中で、この部屋が一番費用がかかったと言われています。衆議院の議場は450畳だそうです。見た目にはそれほど広く感じませんでした。テレビで見慣れた予算委員会室では、総理大臣の座る席に参加者の何人かが交代で座り、記念写真に収めました。また、自民党総裁控室でも安部総理が座る席に腰掛けて座り心地を試しました。衆議院議長控室には、戦後の議長さんの肖像画が飾られており、ここで与野党の幹部が集まり、議会の運営をはかっています。中央広場には、板垣退助、大隈重信と伊藤博文の銅像が立っていて、現在の立法の姿を厳しく見ている気がしました。

見学後に、議員食堂で昼食をいただきましたが、並のうな重は、今の市井の同等品と比べると安いと思いました。食事を含めて、2時間半の国会議事堂見学会はアツト言う間に過ぎ去りました。

最後になりましたが、長さんの分かり易い説明と長時間のお付き合いに感謝申し上げます。また、企画された上野(光)さん・藤沢さんの心配りにも感謝いたします。

【「国会議事堂」見学会の様子】

